

福岡市総合図書館映像ホール
Fukuoka City Public Library Movie Hall

シネラ
Ciné-là

シネラ・ニュース
January.2002 No.66

高倉健
特集

特集

1

特別企画

特集

アラヴィンダン監督特集

特別企画

何か彼女をどうせやが

『駅 STATION』 イラスト:花野孝史



特集 アラヴィンダン監督特集

インド映画の巨匠・アラヴィンダン監督の代表作を上映

至純至高の映画詩人・アラヴィンダン

インド映画の巨匠アラヴィンダン監督(1935~91)は、サタジット・レイに比肩する映画監督として高く評価されている。その生涯で残した劇映画は12本と決して多くはなく、またマラヤーラム語というインドの地方言語で撮られているため、国際的に知られるようになるまでに時間がかかったが、彼の作品の爱好者は世界中に数多くいる。

ケーララ州の美しい自然と素朴な人々を、アラヴィンダン監督は詩的に、そして感性豊かに描き出していく。今回はアラヴィンダン監督の代表的劇映画7本とドキュメンタリー1本を上映するが、「南



会期：17日(木)～26日(土)
※休館日・休映日を除く

観覧料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の呈示が必要です。)

17日(木)14:00 23日(水)14:00



黄金のシーター Golden Sita

監督：G・アラヴィンダン
出演：ラームダース

インド古典叙事詩「ラーマーヤナ」の後日譚を映画化したもの。貞操を疑われて自殺した高潔な妃シーターは、風となって夫のラーマ王子と子供達を守る。精霊が自然の中に存在し、森を舞台に神話の世界が展開する。

日本語字幕付き
1977年/35ミリ/カラー/87分/インド

18日(金)14:00 23日(水)19:00 26日(土)11:00



魔法使いのおじいさん The Bogey-Man

監督：G・アラヴィンダン
出演：ラームンニ

田舎の村に魔法使いと言われているおじいさんがやってくる。子供達はすぐに仲良くなつておじいさんと遊ぶ。そしてお別れの日、おじいさんは子供達を動物に変身させてくれた。心温まる児童映画の傑作である。

日本語字幕付き
1979年/35ミリ/カラー/89分/インド

17日(木)19:00 20日(日)15:00



サーカス The Circus Tent

監督：G・アラヴィンダン
出演：ゴーピ

日本語字幕付き
1978年/35ミリ/モノクロ/130分/インド

村にサーカスがやつてくる。素晴らしい芸や出し物に子供達は大喜びし、芸人達も盛り上がる。しかし翌日、子供達は海辺でほんやりと、疲れた体をいやしている芸人達を見るのだった。南インドの牧歌的風景が、飾り気のないスケッチのように描かれる。

日本語字幕付き
1978年/35ミリ/モノクロ/130分/インド

18日(金)19:00 24日(木)14:00



エスタッパン Stephen

監督：G・アラヴィンダン
出演：ラージャン・カッカナーダン

エスタッパンという名前のキリスト教徒の話。人は彼のことをお人好して、バカみたいな男という。またある人は彼は聖人のような人間で、奇跡をおこすことができるという。果たしてエスタッパンは何物か。聖なる患者を描いた大人の寓話である。

日本語字幕付き

1979・80年/35ミリ/カラー/94分/インド

19日(土)11:00 24日(木)19:00



黄昏 Twilight

監督：G・アラヴィンダン
出演：バーラチャンドラン

純粹で感受性の強い青年の物語。彼はこれからどう生きるか方向を決めきれない状態だった。友達は次々と彼から去っていき、彼はどんどん内向的になっていく。ケーララ地方の美しい自然と青年の内面世界を細やかに美しく描いた作品である。

日本語字幕付き

1981年/35ミリ/カラー/108分/インド

19日(土)15:00 25日(金)14:00



オリダット・ あるところで Once, Somewhere

監督：G・アラヴィンダン
出演：ネドウムディ・ヴェーヌ

50年代中頃、インドのケーララ州が成立する以前の地方の村を舞台とした作品。共産党政権誕生以前のどかな村の風景、村人や祭りの様子などが描かれる。監督自身が若い頃経験したであろう村の変化が、のんびりと描かれる作品。

日本語字幕付き
1986年/35ミリ/カラー/113分/インド

20日(日)11:00 25日(金)19:00 26日(土)15:00



追われた人々 The Dispossessed

監督：G・アラヴィンダン
出演：モーハンラール

主人公はカルカッタの役所で働いており、彼の仕事は東ベンガルからの難民をアンダマン諸島に入植させることで、毎日多くの難民に面接して、適格者を認定している。世界中で起こっている“追われた人々”への共感に溢れた作品。

日本語字幕付き
1990年/35ミリ/カラー/101分/インド

特別企画 27日(日)11:00/15:00

100年の皮を むせば

観覧料：600円(大人)
500円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方及び、福岡市在住の65才以上の方は300円。(手帳の呈示が必要です。)

本作は、昭和5年・キネマ旬報第1位を獲得した名作である。当時、世界大恐慌の影響下にあった日本では、「傾向映画」と呼ばれる左翼的思想の映画が多く作られていた。「何が彼女をそうさせたか?」はその代表作として高く評価され、興行的にも大成功した作品である。しかし第二次世界大戦の中でいつしかフィルムが行方不明となり、誰もが失われた名作と考えていた。ところがこの作品が93年、一部が欠落した状態ではあるが、ロシアで発見される。

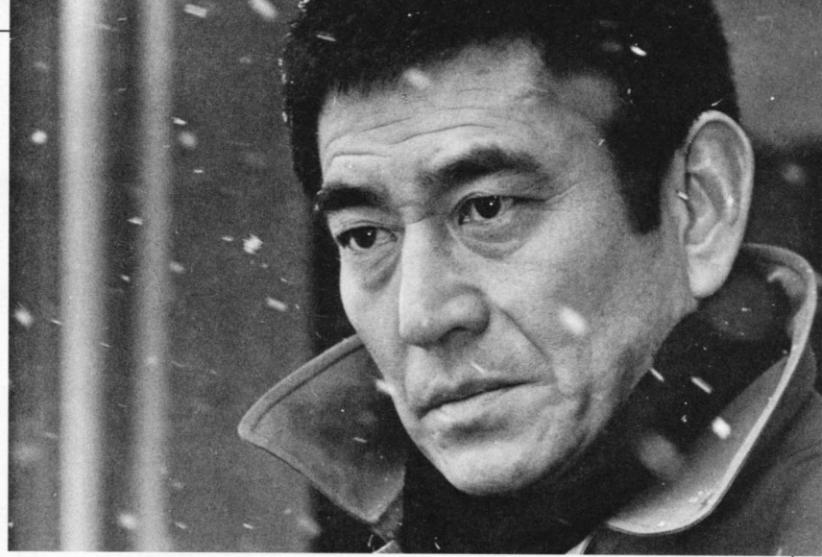
そして帝国キネマ初代社長山川吉太郎の孫にあたる山川輝雄を中心とした人々の尽力により、97年に復元され、さらに98年には今回上映するオーケストラ・サウンド復元版が製作された。もともとサイレント映画であった本作に、クラシック音楽が付加され、欠落した部分には字幕が補われている。冒頭部分と結末が欠けていることは残念だが、主演・高津慶子の清楚な魅力と共に幻の映画が今蘇る。



貧しい家庭に生まれたすみ子は、伯父の家に引き取られる。ところが伯父はすみ子をサーカスをやつとのことで逃げ出したすみ子だが、以後は詐欺師の手先になったり、生きるために様々な職を転々としていく。苦しい生活にあえぐすみ子は好きな男との心中を決意するのだが…。

監督：鈴木重吉
出演：高津慶子 海野龍人
製作：帝国キネマ演芸株式会社
復元版製作：山川輝雄
音楽：ギュンター・A・ブーフヴァルト
演奏：バナトゥール管弦楽団

1929年/16ミリ/モノクロ/77分
オーケストラ・サウンド復元版



特別企画

高倉健 特集

9月 13日
15:00

11月 14日
14:00

15:00

16:00

17:00

18:00

19:00

20:00

21:00

22:00

23:00

24:00

25:00

26:00

27:00

28:00

29:00

30:00

31:00

32:00

33:00

34:00

35:00

36:00

37:00

38:00

39:00

40:00

41:00

42:00

43:00

44:00

45:00

46:00

47:00

48:00

49:00

50:00

51:00

52:00

53:00

54:00

55:00

56:00

57:00

58:00

59:00

60:00

61:00

62:00

63:00

64:00

65:00

66:00

67:00

68:00

69:00

70:00

71:00

72:00

73:00

74:00

75:00

76:00

77:00

78:00

79:00

80:00

81:00

82:00

83:00

84:00

85:00

86:00

87:00

88:00

89:00

90:00

91:00

92:00

93:00

94:00

95:00

96:00

97:00

98:00

99:00

100:00

101:00

102:00

103:00

104:00

105:00

106:00

107:00

108:00

109:00

110:00

111:00

112:00

113:00

114:00

115:00

116:00

117:00

118:00

119:00

120:00

121:00

122:00

123:00

124:00

125:00

126:00

127:00

128:00

129:00

130:00

131:00

132:00

133:00

134:00

135:00

136:00

137:00

138:00

139:00

140:00

141:00

142:00

143:00

144:00

145:00

146:00

147:00

148:00

149:00

150:00

151:00

152:00

153:00

154:00

155:00

156:00

157:00

158:00

159:00

160:00

161:00

162:00

163:00

164:00

165:00

166:00

167:00

168:00

169:00

170:00

171:00

172:00

173:00

174:00

175:00

176:00

177:00

178:00

179:00

180:00

181:00

182:00

183:00

184:00

185:00

186:00

187:00

188:00

189:00

190:00

191:00

192:00

193:00

194:00

195:00

196:00

197:00

198:00

199:00

200:00

201:00

202:00

203:00

204:00

205:00

206:00

207:00

208:00

209:00

210:00

211:00

212:00

213:00

214:00

215:00

216:00

217:00

218:00

219:00

220:00

221:00

222:00

223:00

224:00

225:00

226:00

227:00

228:00

229:00

230:00

231:00

232:00

233:00

234:00

235:00

236:00

237:00

238:00

239:00

240:00

241:00

242:00

243:00

244:00

245:00

246:00

247:00

248:00

249:00

250:00

251:00

252:00

253:00

254:00

255:00

256:00

257:00

258:00

259:00

260:00

261:00

262:00

263:00

264:00

265:00

266:00

267:00

268:00

269:00

270:00

271:00

272:00

273:00

274:00

275:00

276:00

277:00

278:00

279:00

日本映画との出会い 自分史物語

私が初めて日本映画と出会ったのは、今から約40年前のことだ。当時小学生2~3年生であったらうか、時代劇が好きな父に連れられ、北九州市の小倉東宝だったと思うが、生まれて初めて映画館で観た映画が「椿三十郎」である。父と一緒に二階席?の後ろの方に座り、カリントをバクつきながら一心不乱に観ていた。ラスト前の屋敷の中に流れる小さな川?に椿の花が落ちて流れ去るシーンに、命運がつくるというか命の優しさを感じた。また、ラストシーンの三船敏郎と仲代達也の決闘シーンで仲代達也が血しぶきを出しながら静かに倒れる。この時初めて感じた「人の死に対する恐怖感」を、全身に味わされたような感覚が今でも心に染みついている。

あの映画は、確かに白黒のはずなのに、仲代達也の胸から吹き出た血しぶきが紅く染まって見えた。あの時、何故、自分にそういう風に見えたのかはわからないが、あの「血しぶき」の紅さが、今でも目に焼き付いて離れない。

その後も何度も父に連れられて映画を観ているはずなのだが、不思議に何も思い出せない。次に観た映画で想い出されるのが、小学校の講堂で観た「東京オリンピック」である。初めてカラー映画を観た訳ではないのだが、百メートル走決勝のペイズやマラソンのアベベ、女子バレーの日本対ソ連、体操女子のチャスラフスカの演技などが、本人の息づかいと共に心に迫ってくる。図書館でも何度もこの映画を上映しているが、いつ見ても、当時のオリンピック会場に、まるで自分がその場所に居たかのような錯覚に包まれてしまう。本当に迫力満点の映画である。

そして、いつしか映画少年よろしく中2から中3にかけてよく観た。特に加山雄三の「若大将シリーズ」や「怪獣映画シリーズ」が忘れられない。今ではもう廃業され無くなってしまったが、雑誌の「日活公楽」や「筑紫映画」「筑紫東映」によく出入りしていた。特に東映は二階席があり、最前列は畠敷きであったのが懐かしい。

映画の方は、「海の若大将」や「エレキの若大将」「アルプスの若大将」などを観たときに、加山雄三に対してかなりの嫉妬心を抱きながらも、いつも

か自分もこんなスポーツ万能の人間になりたいと思いつつ観ていたような気がする。一方、怪獣映画では、モスラや、モスラが絡んだゴジラシリーズをよく観たものだ。

当時は、中学生の身分でありながら、一人で映画館に入りることは学校で禁止されていたはずなのだが、幸い補導されることもなく無事に映画館に入りできたのは、周りの大人的に寛大さに恵まれていたからなのかも知れない。

高校生になると、友人らと共に「東映任侠シリーズ」を見に行く機会が多くなった。特に高2の頃は、安保闘争や大学紛争が盛んで、東大の安田講堂の陥落シーンがTVや新聞を賑わしていた。私の場合は、九州大学の米軍機墜落事件から勢いを増した学生運動が印象深く残っている。教養部の校舎を占拠する学生と県警との攻防が凄かった。県警が突入した日は、朝早くから六本松の上空をセスナやヘリなどが6~7機程旋回していた。突入前後の怒号、火炎瓶や投石、放水銃などを傍観者の遠目に見ながら、学生運動の終焉を垣間見た気がする。

またその頃、東大の学祭で発表された「とめてくれるなおつかさん 背中のいちょうが泣いている

男東大どこへ行く」のコピーが示すように、高倉健や鶴田浩二といった任侠スターらの、「男気」や「アウトロー精神」にふれたい一心で、色々な任侠映画を観た。

私自身、一番印象に残っている映画は仁侠映画ではないが、「飢餓海峡」の三国連太郎と、伴淳三郎や高倉健の刑事姿が好対照に描かれ、非常に印象的であった。



「飢餓海峡」

ところで、今月の「高倉健特集」は、忍耐を常とするようなヤクザ役でない高倉健が觀れると思う。ヤクザ役から脱皮した「陰ある男性」を演じる高倉健を、是非ともご覧いただきたい。70年代以降、日本映画の観客動員数が減ってきており、日本人の心や日本文化を再確認する意味でも、多様な日本映画を観て欲しいと思う。特に最近の、差別問題を扱った映画は佳作が多い。日本人が外国人とどう向き合うのかを、日本映画の中から学んでみるのも、一つの方法ではないだろうか。

私自身の日本映画とのふれあいは、どちらかというとB級映画の方が多いが、登場する役者さんのちょっとした仕草に、日本人の心を探していたのかも知れない。さて、今年は2002年。どんな映画が流行るのだろうか…。アニメに一人勝ちされないような骨太の社会派作品が、どんどん出てきて欲しいものだ。

映像資料課 岩下治巳

1月

上映スケジュール

1 火祝

4 金

年末・年始の休館日

5 土

6 日

7 月

8 火

9 水

10 木

11 金

12 土

13 日

14 月・祝

15 火

16 水

17 木

18 金

19 土

20 日

21 月

22 火

23 水

24 木

25 金

26 土

27 日

28 月

29 火

30 水

31 木

11:00
居酒屋兆治

15:00
君よ憤怒の河を涉れ

11:00
駅 STATION

15:00
新幹線大爆破

休館日

休映日

14:00
日本女侠伝 侠客芸者

19:00
網走番外地・悪への挑戦

14:00
人生劇場・飛車角と吉良常

19:00
人生劇場・飛車角と吉良常

14:00
新幹線大爆破

15:00
駅 STATION

15:00
君よ憤怒の河を涉れ

11:00
網走番外地・悪への挑戦

15:00
人生劇場・飛車角と吉良常

14:00
日本女侠伝 侠客芸者

休館日

休映日

14:00
黄金のシーター

19:00
サーカス

14:00
魔法使いのおじいさん/子象ちゃん

19:00
エスタッパン

11:00
黄昏

15:00
オリダット・あるところで

11:00
追われた人々

15:00
サーカス

休館日

休映日

14:00
黄金のシーター

19:00
魔法使いのおじいさん/子象ちゃん

14:00
エスタッパン

14:00
オリダット・あるところで

11:00
追われた人々

15:00
追われた人々

11:00 / 15:00
何が彼女をそうさせたか

休館日

休映日

14:00
黄金のシーター

19:00
魔法使いのおじいさん/子象ちゃん

14:00
黄昏

19:00
追われた人々

11:00
追われた人々

15:00
追われた人々

11:00 / 15:00
何が彼女をそうさせたか

休館日

休映日

月末休館日

マリソン

百道ランプ 福岡ドーム

福岡タワー

シーホーク ホテル&リゾート

国立病院

中国総領事館

福岡市総合図書館

エスタッパン

福岡市博物館

早良消防署

百道中央公園

博物館南口

早良区役所

トピア通り

修猷館高校

地下鉄西新駅

千代今宿駅

地下鉄藤崎駅

交通アクセス：当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄：西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス：天神～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)

博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので大変便利です。

お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑記

シネラで初めての男優特集。「健さん」特集とした方がぴったりだったかも。現在活躍中の映画俳優の中で、名実共に「シネラ」の1月を飾るにふさわしい顔です。今月は、他にも、インドの巨匠「アラヴィンド・インダノ監督」特集、戦前の幻の名作「何が彼女をそうさせたか」復元版など、盛りだくさん。是非、お見逃し無く。

(H.M.)

お知らせ

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成14年2月号～平成14年3月号までの郵便切手(90円×2カ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。
宛先：〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで